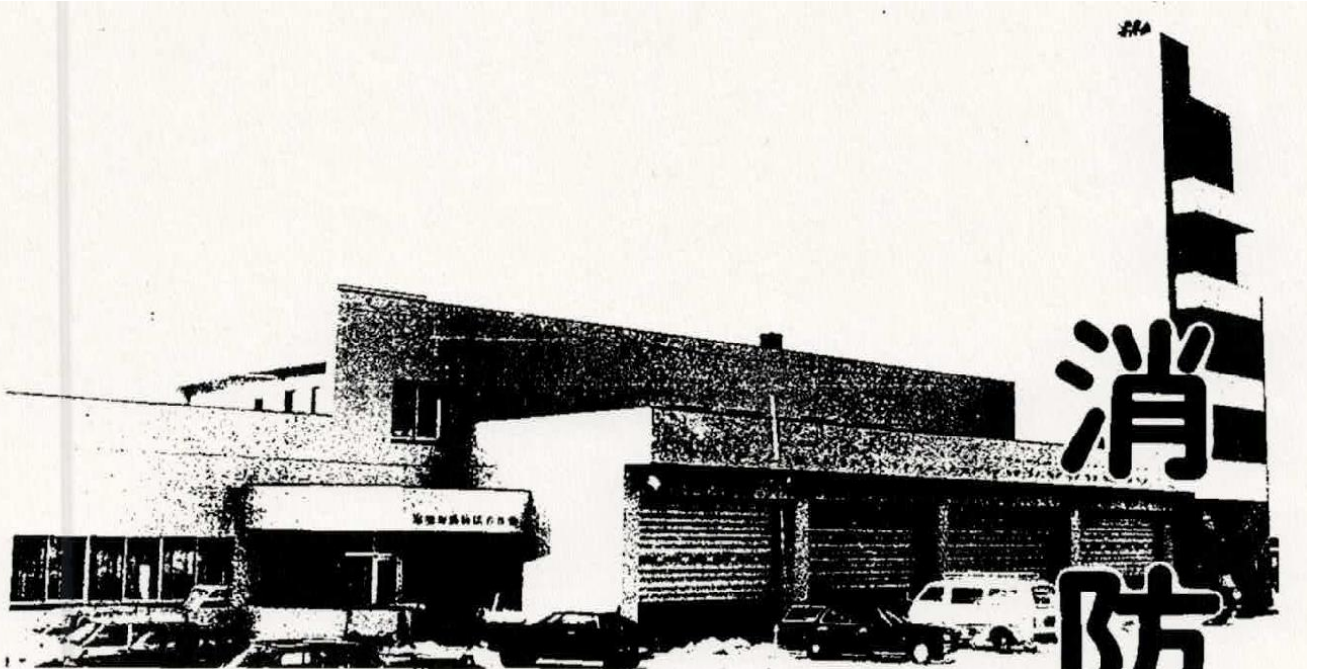


## 広報誌で見る恵庭消防の歩み 3

1980～1989(昭和 55～平成元)年

昭和 55(1980)年 2 月



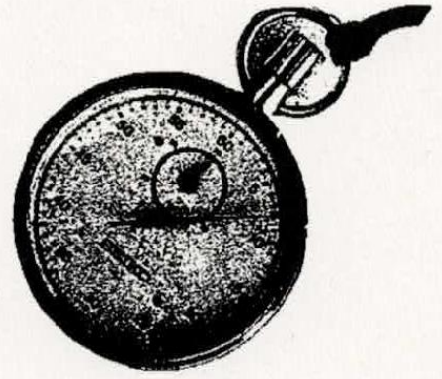
# 消防庁舎完成

昨年七月から新築工事を進めてきた、消防庁舎が一月三十日に完成しました。この完成にともない二月十日から十一日にかけて現庁舎から新庁舎へ移転します。

場所は有明町の警察官派出所で、庁舎延面積一千四百七十七・八平方メートル、総事業費三億四千三百八十一万円です。構造は対震対策を考慮した鉄筋コンクリート造り二階建て一部五階建て（高さ二十四メートル）の訓練塔を併用し、今後の中高層建物火災等に対応できるように設計されたうえ、将来導入を予定している大型特殊消防車両のスペースを確保しています。

なお、現庁舎（昭和三十六年五月建設庁舎延面積二百二十五平方メートル、鉄筋コンクリートブロック造り一部二階建て）は消防職員、機材の整備が進むにつれて狭くなり、消防本部が旧公民館、市役所等へ移転しました。このような状況の中では、消防・救急活動の円滑な遂行に支障がはじめていましたが、このたび完成した庁舎は、消防本部及び消防署並びに消防団本部及び第一分団が入る総合庁舎で、今後の恵庭市の発展に対応した施設であり、市民の防災の拠点にふさわしい内容のものになりました。

1分でも早く！  
1秒でも早く！



— 消防救急指令装置を導入 —

恵庭市の消防・救急用通信連絡体制は、一つの電話や無線を職員の間頭連絡でつなぐ方法のため緊急事態への即応にさまざまな障害が生じてきました。市では消防庁舎新築にあわせて最新鋭の消防救急指令装置を導入して飛躍的な質の向上を図るようになりました。

この消防救急指令装置整備費は約三千万円で、電話自動交換装置と消防・救急無線を組み合わせてあり、通信業務を一カ所で集中的に操作することができます。

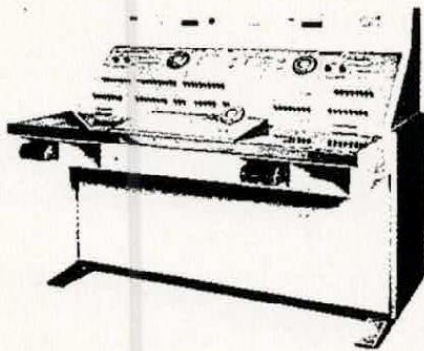
操作はヘッドホンを付けた取扱者二名が、ボタンを操作することにより、各種の通信業務の処理にあたります。

いままでサイレンが吹鳴されると、市民からの照会電話が殺到し、署の一般加入電話はもちろんのことと119番まで満杯になることがありましたが、火災案内電話を組み込まれてありますので、迅速に情報をサービスマンすることができ、また、自動録音装置が動き出し、電々公社の117番時報サービスと連動して通話内容と正確な時刻とを同時に録音する仕組みになっています。

災害時における消防職員の非常召集は、消防無線を利用してサイレンの自動吹鳴により、早期出動することができます。さらに、警察、北電、市役所その他関係機

関への連絡体制も強化されます。

このほか関連設備として、各医療機関の在院医師、診療科目、空きベッド、手術の可否など一目でわかる病院状況表示盤、消防車などの出動、帰署、待機を表示する車両状況表示盤、また最大三・五秒で必要な地区の地図がスクリーンに浮かび上がる管区別市街図表示装置などがセットされます。



出動件数が大幅に増加している救急体制を強化するため、救急車と病院間の救急無線装置の導入により医師との直接通話で、救急患者の模様などを迅速にしかも正確

消防庁舎の移転は

2月10日・11日に行います

に連絡することができます。  
※消防署では、消防庁舎を一般公開する計画をたてていますが、日程等くわしくは、後日広報でお知らせいたします。

消防本部、消防署では二月初めから新しい消防救急指令装置の運用訓練など移行準備作業にかかり、

移転途中の火災、救急出動に備えながら、十日から十一日にかけて引越しを行います。

これに伴って、つぎのことが一部変更になりますのでご注意ください。

電話番号の変更

十一日午後二時以降の消防本部の代表電話番号（現行2-3577番）は3-5191番に切りかわります。

テレフォンセンターの案内方式の変更

従来は口頭による病院案内でしたが、録音テープで案内する方式になります。

なお、電話番号は今ままでおおり3-5000番です。

電話による火災案内サービスの新設

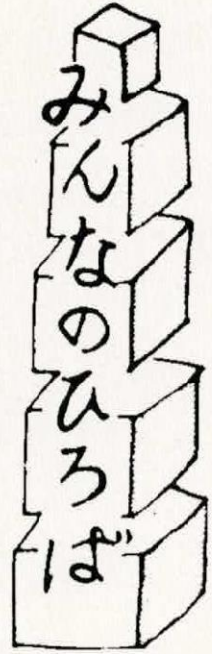
市民からの電話照会に応じて火災発生場所などについての情報を録音テープ方式により行います。火災案内電話として3、3191番が設置されますのでご利用ください。

なお、119番の間合せは、固くお断りします。

サイレンを吹鳴

消防無線波を利用して、サイレンを吹鳴します。従来の市役所、消防署島松出張所、中恵庭消防分団のほか、新たに有明町の新庁舎、漁太消防団、北島消防団にも二月十一日から正後の時報サイレン（十五秒間）を吹鳴します。

※二月四日の正後は新庁舎のサイレン音量測定のため、十五秒間サイレンを吹鳴します。



「一日消防士に参加して」

婦連協 内山 経子

四月二十五日、春の火災予防運動の一環として一日消防士を委嘱され、参加いたしました。新しい「恵庭市消防総合庁舎」において、まず三浦消防長より委嘱状をいただき、講堂にて「消防に関する概況説明」などわかり易く細かにうかがうことができました。

次いで新庁舎の見学をいたしました。すべて最新鋭の消防救急設備が自動化され、目を見るものばかりでした。その中でも特に心強く感じましたことは、火災救急出動訓練を拝見しました折、消防車の出動は通信室からの指令で自動的に車庫の扉が開き、的確迅速な活動態勢に入れることを知り、大変頼もしく感じました。

また救急患者発生時には、通信設備のボタン一つで出動指令が伝達され、病院運用表示盤に市内各病院の空ベッドの状況が瞬時に読みとれて、患者のタライ回しの防

止ができる態勢を知り、気強く感ずると同時に安心いたしました。

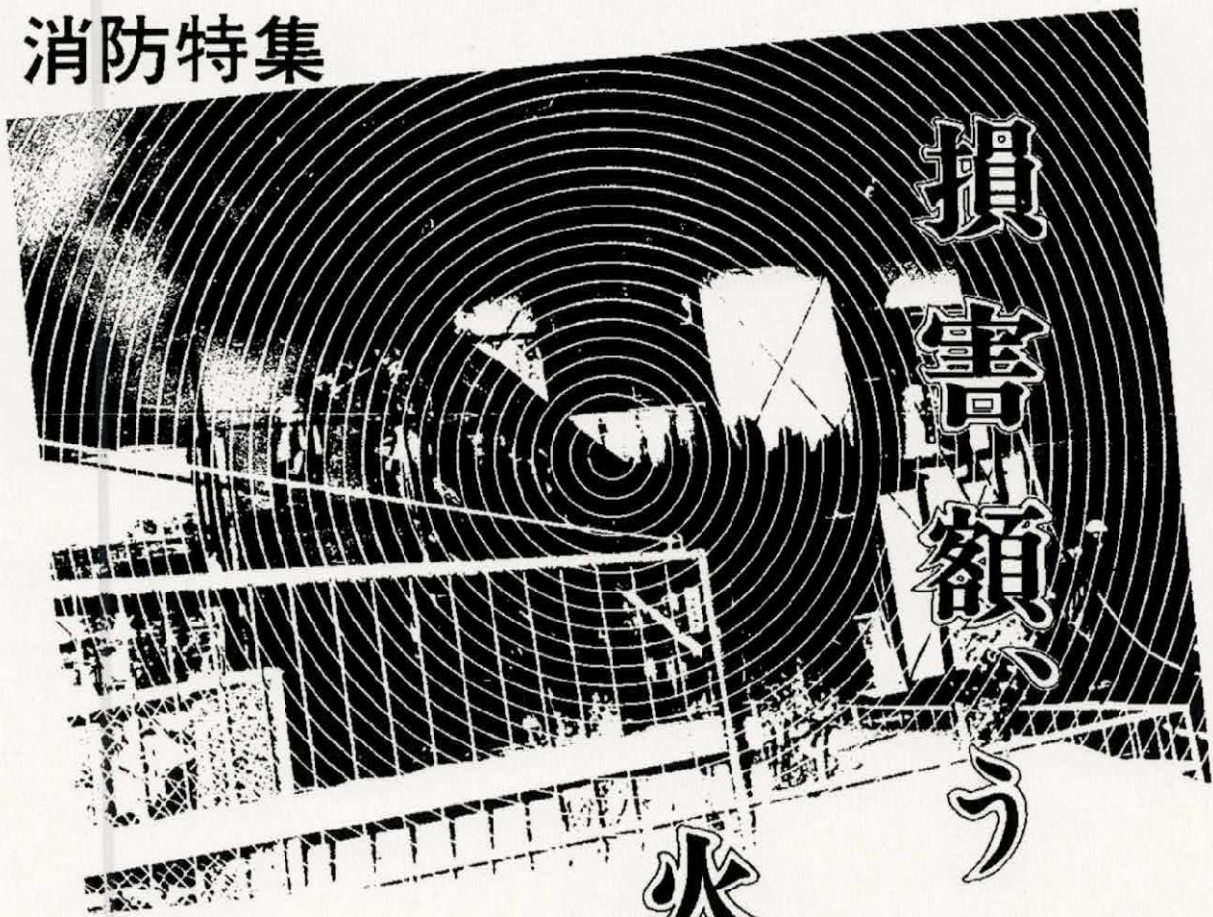
その後これまた新しい市民会館に参りました。日常気軽に利用しておりますこの会館を、山岸館長のご説明でくまなく拝見しましたが、消防設備はこれまた完璧で、多数の人々が集会するこの建物に深い配慮のあることを改めて認識いたしました。

一日消防士の消火訓練もありました。このような消火器の取り扱い訓練とか点検は定期的に町内会行事として行えば効果的でないかと感じました。最後は高い訓練塔（地上三四メートル）に登り、早春の風を頬にうけながら道央ベルト地帯に広がる恵庭市を初めて眺めました。この美しい郷土の人々の生命と財産を二十四時間勤務で、片時も中断することなく守って下さる消防職員の方々に、この経験から頭のさがる思いでした。改めてこ

苦勞を感謝いたします。同時に私達主婦が率先して「火災の無い町」を心掛けなければ、と強く感じました。

一日消防士を委嘱されて、消防の認識を一層深めることができました。心からお礼を申しあげます。

# 消防特集



# 損害額

# うなぎのぼり

# 火災相次ぐ

昨年は一八一日間という無火災記録を樹立しましたが、今年に入ってから住宅火災、店舗火災等が続発し、その損害額は前年同期比で約五・六倍に達しています。

市消防本部によると、二月一五日現在の火災発生件数は五件（建物四、車両一）で昨年同期（建物四、車両〇）より一件多くなっています。損害額をみると昨年が約一、二五四万円に対し、今年はずでに約六、九七五万円に達しています。昨年一年間の損害額が約七、五七五万円だから、わずか二カ月あまりでその八七割に当たる損害が出ってしまったこととなります。

# “春は危ない”

出火原因のトップは

## たばこ

——火災が最も多い季節です——

年間

### あなたです!

## 火事を出すのも防ぐのも

この日本列島のどこかで、8分14秒に1回の割合で火災が発生し、毎日28人が亡くなったり傷ついたりしている——先ごろ発表された55年版消防白書は、このように伝えています。

冬から春先にかけては、空気が乾燥し、強い風が吹くことが多く、1年のうちでも火災の発生が最も多い季節です。54年を例にとりますと、冬から春にかけての火災発生件数は、年間の約6割を占めています。また、出火原因のトップは相変わらずたばこで、年間約130億円が灰になっています。



昭和三五年以来  
一九年間「独走」

- ▷ 投げ捨て.....59.8%
- ▷ 灰皿などから落下.....15.5%
- ▷ 消し忘れ.....8.5%
- など

## 消防団長に 佐垣氏が就任

市消防団長に2月1日付で前副団長の佐垣嘉寿雄氏(59歳)が就任しました。



また、副団長には杉山陽三(前第1分団長)と小玉運吉(前第五分団長)の両氏が就任しました。

3月15日までは春の全国火災予防運動が展開されます。道においても厳しい寒さが続くなか、暖房器具等の使用に伴い火災が多発し、焼死者も多くなるため、これに合わせ「焼死事故防止強調運動」が実施されます。

火のもとには、十分気をつけましょう。

## 市消防本部 機構改革

### 副署長制を新設

市消防本部は二月一日、消防・救急体制を強化するための機構改革とこれに伴う人事異動を発令しました。

① 消防署に副署長制を新設し、二四時間警備体制を強化した。

② 島松出張所長を従来の係長職(司令補)から課長職(司令)に昇格したほか職員を増員し、島松地区などの消防体制を強化した。

③ 消防隊を消防係に改組し、隊長を係長職(司令補)に昇格させた。

④ 本部を署との勤務の重複を避け、業務の効率アップを図った。

——などです。

- ◇ 恵庭市消防本部人事異動(二月一日付)——課長、係長職
- ▽ 副署長(庶務係長)

- 岡藤一繁▽同(島松出張所長) 金森裕▽
- 島松出張所長(消防署次席) 中寄正興▽
- 庶務係長(管理係長) 柴田幸雄▽管理係
- 長(警備第一係長) 前山征夫▽警備第一
- 係長(通信第二係長) 高橋重則▽通信第
- 二係長(本部消防係) 高橋昌志▽救急第
- 一係長(第二救急隊長) 五十嵐勇▽同第二
- 係長(第一救急隊長) 久保田重利

## 過去5年間 無火災地区

### 和光町内会第1区・盤尻部落会

1月28日の第1回駐在主任会議の席上で、過去5年間(51年1月~55年12月まで)にわたり無火災記録を続けている和光町内会第1区(中出辰男代表)と盤尻部落会(嘉屋清一会長)に対し、市長名で感謝状が贈呈されました。

### 地域ぐるみで火災のないまちをつくりましょう



# 一日消防士

恵庭婦連協理事 中沢 美智子

春の火災予防運動の一環として市消防本部を訪れる機会に恵まれて今まで知らなかったことをいろいろと学び得た有意義な一日でした。

まず昨年完成した市消防庁舎に入り、全道一の設備を持つ各室に驚きの目を見張りました。「火事で」と連絡があったら、消防車は距離にもよるが、現場まで遅くとも五分以内で到着出来る体制が常に整っているとのこと。私は今まで、火事がないと消防署は暇だらう...と思っていたが、消防長さんのお話を聞いて、いかに普段の火災予防に対しての仕事の多いことか、毎日毎日一秒の気のゆるみを許されない消防隊員の陰の努力、たとえば、雨の日、雪の日も一日もかかさず消火栓の点検、訓練塔で、耐煙、耐熱、人命救助訓練、命がけの高層綱渡り訓練、また体力作りの基礎運動に汗を流し普段でも常にたくさん火災予防活動

の仕事があることをお聞きし私の認識不足に身のちぢむ思いで帰って参りました。今日一日の出来事を我が家で話し合い、一人一人が今まで以上に火の元に気をつけること、火災のない、明るい家庭、そして社会へと機会あることに防火PRを一言付け加え、一人でも多くの方に私の得た知識をPRしている次第です。

お忙しい職務の中、私達主婦のために長時間御説明、また街頭広報に恵庭市街、島松市街とくまなく回られた市消防本部の方々、本当に有り難うございました。

春うららうっかりするな

### 火の用心

この感想文は、去る四月二十四日に行いました一日消防士に参加し、提出のありました感想文の中から、代表として掲載させていただきました。



# 「一日消防士」

百瀬順子



四月二十七日、私は消防署で行われた一日消防士に参加させていただきました。

近くに立派な消防署がありながら、一度も庁舎の中に入ったことがなかったので、期待と不安で、とても心配でした。

火災予防の話、そして、防災映画を見せていただき、普段、なにげなく使っている「火」が、私達のちよつとした不注意で、大きな事故になり、多くの人々に御迷惑をかけることを痛感させられました。また、消火器の使い方も教えていただき、「火」は、手前の方から消さないとよく消えないという事が、大変良くわかりました。これからは私も、もっと「火」に対して、注意しなければと痛切に感じさせられた一日でした。

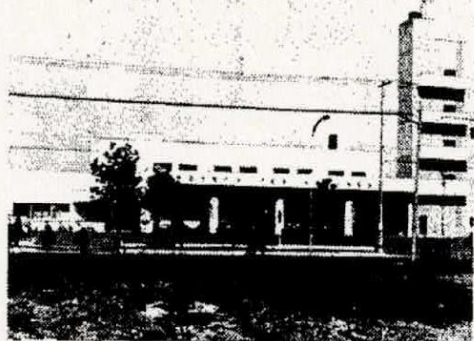
最後に、職員の方々の丁寧な御指導に心より感謝申し上げます。

本当に有り難うございました。

この感想文は、去る四月二十七日に行われた一日消防士に参加された方々の感想文の中から、代表として掲載させていただきました。

# 用心、目で用心

## 火事が起きたらどう対応しているか



市民の生命や財産を守るため、消防本部と消防署に配置されている職員は、消防長を始めとして六十九人。隔日勤務の二十四時間態勢で、いつ発生するか分からない火事や事故、急病人に備えています。

火災出動の基準には、第一種から第四種まで四つの段階があります。「火事だ」という第一報が入ると、普通は第一種出動となり、例えば恵庭市街地であれば、有明町の消防署からただちに消防車が発進します。さらに招集に応じて地元の消防団分団も駆けつけます。火の手が簡単におさまらなかったり、類焼の危険が出てきたりする

と、順次、第二種・第三種出動が発令され、消防署島松出張所や他の消防団分団の消防車が出動するほか、非番の職員やその他の地域の消防団員も招集されることとなります。第四種出動になると、これはいわゆる大火の場合で、近隣の市町からも応援がやってきます。このほか、状況によっては、市内三つの自衛隊駐屯地から応援が出ることもあります。

消防署による消火活動を補完する重要な役割を果たしているのが消防団です。消防団の団員は現在百十人で、地域別の五つの分団に分かれ、特に農村部では初期消火に大きな実績を上げています。

## 恵庭の火災状況



## 火事の多いまち

市消防本部の調べによると、昨年一年間に市内で発生した火災は二十二件。二億四千二百五十五万円もの財産が失われました。

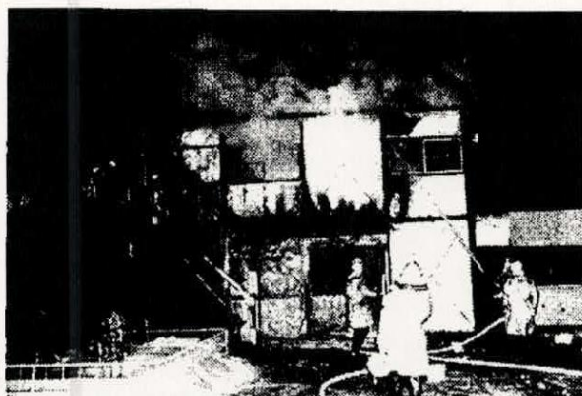
これは人口一万人対比の発生数でいうと五件。同年の全道市部平均が三・八件ですから、少なくともこの年に関するかぎり、恵庭はかなり火災の多いまちと言っているでしょう。

今年八月末現在十四件（前年同期十三件）で、発生件数は前年同期を一件上回っていますが、損害額二千五百九十一万円（同二億一千二百五十一万七千円）、建物焼損数十一棟（同十五棟）、り災世帯数五世帯（同十三世帯）と、実質的な被害は大幅に減少しています。

す。火災による死者は、五十四年三月一日から今年八月末までゼロを続けており、また負傷者も今年一人（同六人）に減っています。

火災原因は、「たばこの不始末または投げ捨て」、「たき火または残り火の不始末」が最も多く、次いで「煙突などの整備不良」、「電気の配電不良」、「子供の火遊び」の順となっています。

これから冬にかけては、石油ストーブなど暖房器具を使用する機会が多くなります。煙突の差し込みなど器具の取り付けや取り扱いにはじゅうぶん注意して、貴重な財産を守りましょう。



# 火の用心、心で。

## 恵庭の救急活動

家族に急病人が出たり、事故でけが人が出たりした場合に頼りになるのが救急車です。

昨年一年間の救急活動は出動件数五百八十件、搬送人員五百六十四人。今年は八月末現在で出動件数三百八十八件、搬送人員三百九十九人と、前年同期に比べ横ばい状態にあります。

今年の搬送人員を症状別で見ると、重症八十四人、中症九十二人、軽症二百二十三人となっております。軽症者が全体の五五・九割を占めています。消防署では、救急車二台でこうした救急患者の搬送にあたっているため、市民のみならずにもその適正利用についてご協力をお願いいたします。



## 57年度消防事業

1. 消防ポンプ自動車購入 1台  
事業費 16,522千円  
消防署に配置
2. 消防ポンプ積載車購入 1台  
事業費 3,360千円  
消防団第5分団配置
3. 消防団及び水道管敷設事業  
消火栓21基 直径75mm 長さ540cm  
水道管敷設 直径150mm 長さ750cm  
事業費 22,978千円

## 火災に備え、トップレベルの消防水利

消火活動の生命線は消防水利にあります。火を消しとめるだけの水が現場になければ、ポンプ車が何台駆けつけようと役には立ちません。

このため市では、安全なまちづくり施策の一環として消防水利の拡充に力を注いできましたが、特に五十年以降は特定防衛施設周辺整備調整交付金による計画的な消火栓の整備が続いています。これによって公設消火栓は五十六年度末で四百四十五基に達しています。このほか民間宅造に伴って設置された消火栓でまだ消防本部に移管されていないものや自衛隊駐屯地内の消火栓などを含めると市内の消火栓は総数五百七十七基となりま

## 火を消すよりも 火を出さないこと

最良の防火対策は、市民ひとりひとりの「火の用心」です。このため消防本部、消防署では「予防消防」の合い言葉のもとに、春と秋の火災予防運動や防火査察などに力を入れています。また市内には有明町、中島町、駒場北、島松仲町、島松寿町に少年火防ク

す。このほか十二カ所に防火水槽が設けられており、こと消防水利に関しては、恵庭は全道のトップレベルにあると言っているとい

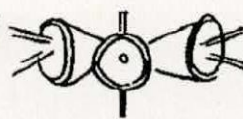
しかし恵庭のまちは年々大きく広がっており、消火栓や防火水槽だけでまちの隅々までカバーするのは困難です。このため消防では河川などの自然水利を活用しているほか、大型水槽車や水槽付きポンプ車を配置して、火災に備えています。消防車は水槽付きポンプ車、化学車、積載車、救助工作車など十三台が消防署、島松出張所、消防団分団に配置されていますが、今年はこのうち二台が新しいものに替わる予定です。

クラブ、有明町に婦人火防クラブが組織されており、こうした予防運動の推進に大きな役割りを果たしています。

万が一、事故や火災が起きた場合に大きな被害が予想されるタンク貯蔵所やガソリンスタンドなどの「危険物許可施設」は、市内に三百七十二カ所。これらの施設の事故防止を図るため、危険物安全協会が組織され、いろいろな活動を行っています。

## 秋の火災予防運動

10月15日～31日



この期間中「火の用心」を呼びかけるため、毎日21:00から30秒間、サイレンを吹鳴します。火災と間違えないようご注意ください。(恵庭市消防本部、消防署)

昭和 57(1982)年 11 月

人事異動

消防長に

伊藤 利雄氏

十月一日付で、恵庭市人事異動が行われました。山岸貢消防長の勇退に伴い、新消防長に伊藤利雄氏(五十四歳)が任命されました。  
主な経歴

二十三年 北海道庁採用、函館中央警察署

五十年 道警本部交通機動隊指導官

五十三年 小樽警察署副署長

五十五年 道警函館方面本部交通機動隊長

五十六年 道警函館方面本部監査官室長

五十七年三月 退職



伊藤消防長

昭和 58(1983)年 2 月



広報「えにわ」に掲載した写真は希望があれば、差し上げます。

1月8日 消防出初式



# みんなのひろば

## 「一日消防士を体験して」

西山千秋

「一月消防士をやってみませんか」との依頼があった時は「はいいいですよ」などと、軽い気持ちで引き受けたものの、だんだんその日が近づいてくると、おっくうな気持ちになってきたというのが正直なところでした。それは、一日消防士の参加についての依頼書を見て、いったいどんなことをするのだろうか、という期待半分、不安半分の気持ちがあったからです。

でも、実際に、消火器による消火の体験、火災出動訓練及び放水、救急出動訓練の見学、応急処置についての講義、それに人工呼吸(マウス・ツー・マウス)の実技指導、どれをとってみても、普段、私が体験することがないことばかりでした。そういう意味では、貴重な体験、経験をしたと思っています。消火器についても、私の家にもあることはあるのですが、使い方など、正直なところ知らなかった。



「みんなのひろば」は市民のみならず作るページです。団体などの催物案内、会員募集などにご利用ください。原稿締切 毎月十日

し、また、知ろうともしなかった。まず、消火器などを使用することもないだろう」という安易な考えが、そうさせたのだろうと思えます。それが、今日、消火器による消火を体験したことで、これから、そういう場面に会ったとしても、あわてることなく、対処していけるという自信を得たと思います。

この作品は、去る四月二十九日に行われました「一日消防士」に参加された方々の感想文の中から代表して掲載させていただきました。



### 優良少年消防クラブ指導者

駒場北町内会長の柴田寿雄さん(48歳、駒場町399)が11月12日、石川県金沢市で開催された「母と子の防



柴田寿雄さん

火全国大会」で優良少年消防クラブ指導者として、道内からただ一人表彰された。柴田さんは町内の防犯防火部長だった昭和52年、小学4年生以上中学生までの子どもたちで駒場北防火クラブを設立。以来、夜廻りや清掃奉仕を続けてきた活動が認められたもの。柴田さんは「クラブができてから子どもの火遊びは一度もなく、防火の意識が徹底してきましたね」と喜びを語っている。

昭和 63(1988)年 5 月



### 消防活動に尽力



寺澤幹夫 さん

市消防団副団長の寺澤幹夫さん（61歳、島松仲町）は、4月13日、62年度消防庁長官表彰を受彰。寺澤さんは、

昭和21年4月に警防団員になって以来42年間、市内の消防、防災活動に活躍され、その功績が認められたもの。昭和42年の栄恵町での大火災において、消火・救助作業など率先して活動。また56年の台風15号による大水害に、土のう積み作業に夜を徹して従事。寺澤さんは「田んぼのあぜ道で仮眠した事もあり、大変でしたが、これからも微力ながら、消防活動に尽したい」。

昭和 63(1988)年 6 月



井波信一さん

### 消防活動に貢献

市消防団第2分団長の井波信一さん（64歳、島松寿町）が、3月6日、63年度消防庁長官表彰を受彰。井波さんは、昭和16年から29年まで長沼村消防団で活動。31年から恵庭町消防団員として、消防、防災活動に活躍され、その功績が認められたもの。42年の栄恵町大火災で、率先して延焼防止に努め、また、56年の台風による大水害で、千歳川の決堤防止作業に夜を徹して従事。「受彰できるとは思いませんでした。身に余る光栄です。これからも消防活動に微力ながら尽したいです」と話す。

いのち

# 人命を守る仕事だから 訓練にも気合が入る。

恵庭市消防署



4人

男の子なら、一度は夢みる消防士。火災・救急現場へさっそうと消防車や救急車で出勤する勇壮な姿が子供たちのあこがれの的になるのかもしれない。しかし、その勇ましい姿のうらには、毎日の厳しい訓練と精神的な鍛練の積み重ねがあることも忘れてはならない。

竹内諭さん(34歳)、吉川勝毅さん(26歳)、上田政行さん(25歳)、池岡達也さん(23歳)の4名・1チームは今年7月に行なわれた高所人命救助の技術競技で全道代表に選ばれ、8月に行なわれた全国消防救助技術大会に出場した。

「高所人命救助というのはビル火災に備えての救助方法なんですが、体力、集中力、技術、チームワークの4つが要求されるだけに難しい訓練の一つです。幸い、昨年の12月に訓練副塔が完成したので、これを使って、一カ月間、毎日6、7時間訓練をした成果が実って、ほんとうにうれしい」と、上田さん。

恵庭市消防は消防本部に総務課(2係)、予防課(2係)がある。また、消防署は警備(2係)、予防(2係)、救急(2係)の6係。人命救助訓練のほか、消火栓、地水利関係、火災防犯、機械類や消



▲ちょっとした親切でも喜んでくれるお年寄り。



▲8時40分、びーんと張りつめた空気の中で朝礼。



▲消防車、上手に描けるかな？



▲今晚のメニューはまたカレーライスです。



▲高所人命救助で全国大会へ出場

防車の点検をするのが、整備係の毎日の仕事。「訓練を通じて、災害現場の状況判断や、冷静かつ素早い対応を身につけるのが目的ですが、毎日の訓練で一番気をつけるのは訓練中のケガです」と警備係長の五十嵐さん。

予防係の仕事は工場や事業所、さらには一般家庭の防火査察が主なもの。その中でユニークなのは、年一回実施している独居老人世帯への見廻り。「独り暮らしのお年寄りが、恵庭でも年々増えている傾向にあります。独りで煙筒をつけ、冬仕度をするのですが煙筒が倒れそうになっているケースもあって、見廻りで発見することもたま。そんな時、直してあげると、喜んでくれて、自家製のパンを食べていけと言ったときかないお年寄りもいます。さびしいんですね」と、予防係長の中泉さん。

消防士の仕事の中で、火災出動と同じように、たえず死と直面する救急の業務。市民からの通報が入ると、通信室から信号音が鳴り、救急出動となる。一回の出動は3人1組。救急の搬送者のトップは急病、ついで交通事故、一般負傷の順である。「昨年の12月に救助工作車が入って、随分と救助の方も早くなりました。消防士は医師や警官と同様人命を守る仕事。だから頻死の人がマウス（口うっし）対マウスで蘇生したときの喜びは消防士冥利に尽きます」と、宮田消防士。

現在、72人が勤務する恵庭市消防。その他、有明、島松東町、中央、漁太、北島と5分団110名の消防団員の体制が整えられている。

折しも秋の火災運動（10月15日～31日）。火の元に十分気をつけてもらいたいと消防士の皆さん。